

2020年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ 中国思想中国哲学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

二〇二〇 年度

大学院文学研究科博士課程 前期2年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ (中国思想中国哲学)

一、左記の文章は清・阮元による「釋心」(『擘經室集一集』卷一)の全文である。

現代中国語に訳せ。訳文は①と②それぞれの問題文の左側に記せ。

① 漢劉熙釋名曰心纖也言纖微無物不貫也此訓最合本義蓋纖細而銳者皆可名曰心但言心而其纖銳纖細之意見矣說文心部次於思部思部次于囟部糸部紃字即从囟得聲得意今人俗書尖字古作鐵鐵與纖同意易說卦云坎其于木也爲堅多心虞翻云堅多心者棗棘之屬按棗棘之屬初生未有不先見尖刺者尖刺即心也說文束字即今刺字解曰木芒也故重束爲棗並棘爲棘皆歸束部皆有尖心之木也易坎卦上六寘于叢棘困卦六三據于蒺藜惟坎爲心而于木多心故爲叢棘蒺藜之象叢棘蒺藜但皆言其纖銳而已

詩凱風吹彼棘心棘心夭夭

②皆言棗棘初生有尖刺故名曰心非謂其木皮外裹赤心在內也心果在內風安得吹之且易曰堅多心禮記曰松柏有心皆謂心爲尖刺故可曰多心有心否則除棗棘松柏皆無心之木耶棗棘松柏較之他木之內心又豈獨多耶爾雅曰檉樸心詩疏引孫炎注云樸檉一名心此亦卽棘心有刺之木禮記如竹箭之有筠也如松柏之有心也凡松柏枝葉初生之年皆有尖刺至第二年則刺落而成葉此言松柏堅木初生必由心而來猶竹箭之由筠而來也筠字不見于說文當卽是筍字筍或爲笋旬尹勻皆相通故禮記孚尹旁達鄭注讀孚尹爲浮筠此與松柏有心同例後人不知筠爲笋字之通借遂與心字並誤解矣

二、左記の文章は、川勝義雄「天道は是か非か」の一節である。「これを読み、全文を中国語に訳せ。

まず、形而上なる「道」の問題は世界と人間との存在根拠の方向に傾き、『易』と老・荘の道家思想に
ななる問題として深化される。それは漢代の讖緯思想から六朝時代の玄学、仏教哲学へと発展するであ
うし、六朝から隋唐時代にかけて、この問題の深化が思想界の主流を占めることになる。他方、人間行為
の「是非」の問題は、人間世界の基本的秩序原理・価値規範の問題として、『春秋』ないし「礼」の学問を
中心とする儒家の固有の領域であり、司馬遷以後の漢代では、この面が思想界の主流をなす。

(川勝義雄『中国人の歴史意識』平凡社、一九八六年、より)

三、左記の八項目の中から四つの項目を選び、それぞれについて知るところを
記せ（中国語による解答も可）。

- ①漢書藝文志 ②四庫全書總目提要 ③晁仲舒 ④抱朴子 ⑤宗密
⑥朱熹 ⑦黃宗羲 ⑧康有為

受験記号欄	
-------	--